

県庁で拉致問題パネル展

北朝鮮による拉致問題への関心を深めてもらおうと、拉致被害者・家族の支援組織「救う会・群馬」などによる「北朝鮮拉致問題啓発パネル展」が10日、県庁1階県民ホールで始まった。16日まで。

今年には拉致に関する資料や写真に加え、横田めぐみさん（拉致当時13）が拉致されて以降、母、早紀江さんが折々で詠んだ短歌6首を展示している。写真。めぐみさんがいつ帰ってきてもいいように門灯を欠かさず付けていたこと、めぐみさんが修学旅行で買ってきたサボテンに花が咲き胸を打たれたことなどが詠まれ、同展のために早紀江さんが直筆で書いた。

一方、救う会・群馬は今夏、運営を担ってきた事務

局長の大野敏雄さん（80）や妻のトシ江さん（83）の体調不良などで存続が危ぶまれたが、若手が幹事を引き継ぎ危機を救った経緯がある。同展では、そのときのことを大野さんが早紀江さんに伝え、返ってきたはがきも紹介している。大野さんは「拉致問題は世間の関



心が薄れてきている。（被害者が）日本に戻ってきてもらいたいという思いなので、多くの人に興味を持ってほしい」と話している。

入場無料。午前9時～午後6時（16日は午後3時まで）。